

知的障がい学級 国語科学習指導案

・・・Ⅳ

日時 令和 ○年 ○月 ○日

場所 ○○小学校

指導者 ○○○○

1 単元名 ことばを楽しもう

2 単元について

(1) 本学級は、1年生から5年生まで7名が在籍している。交流学級での交流及び共同学習に取り組みながら、国語や算数、社会などの学習を知的障がい学級で行っている。交流学級の時間割をもとに、知的障がい学級での学習の時間割を組むため、毎時間学習する学年の組み合わせも違う。一週間に単学年で学習できる時間は各学年1, 2時間程であり、7名全員で学習する時間も2, 3時間程である。学習の形態としては、児童の実態や学習内容を踏まえながら、教師との単学年による学習、小集団による学習、そして、ワークシステムなどを活用しての一人学びの学習を行い、学習の充実を図っている。

本学級の国語科のねらいは、「読む力・書く力・伝える力を培い、日常生活の中で自分の思いを表現する能力と技能を育てる」と考えている。特別支援学級の学習を進めるにあたり、発達検査等における特性も踏まえ、それぞれの児童の教育課程における学年（または、下学年）の学習指導要領の目標に照らし合わせながら取り組み、国語科のねらいにせまりたい。

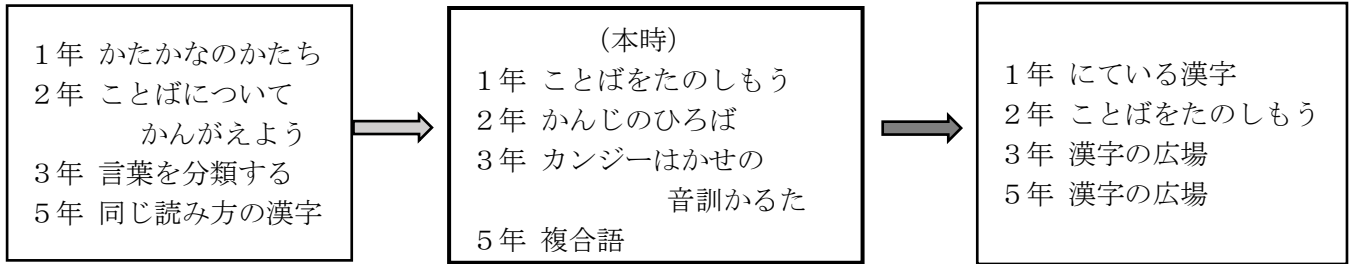
本単元の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、言葉や文の面白さを学び、言葉の知識や技能を高めていくことをねらっている。これは、本学級の児童の実態から重点的に取り扱いたい内容である。そこで、それぞれの該当学年の国語科の学習（1年「ことばをたのしもう」2年「かん字の広場」3年「カンジーはかせの音訓かるた」5年「複合語」）に組み込み、一人一人の学習の実態や特性を考慮し、児童の学びへとつなげていきたい。

本時では、4学年7名の全員が一同に学習に取り組む。そこで、一人学びの時間、友達と学び合う時間などの学習形態を取り入れながら、一人一人の児童が音読・漢字・文づくり・視写などの課題学習に取り組み、学びを深める時間としたい。課題学習のよさは「自分のペースで主体的に学べる」ことである。課題への取り組み方を知り、課題をやり遂げていく達成感や教師や友達との学び方を身に付けることは、学びへの力となりうると考える。

本単元は、4学年とも「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の内容である。「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する

|    |   |
|----|---|
| 1年 | 伝国（1）イ 言葉の動きや特徴に関する事項<br>（イ）音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。   |
| 2年 | 伝国（1）イ 言葉の動きや特徴に関する事項<br>（カ）文の中における主語と述語との関係に注意すること。<br>ウ 文字に関する事項<br>（ウ）第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。<br>書（1）書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。<br>ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 |
| 3年 | 伝国（1）イ 言葉の特徴や決まりに関する事項<br>（ウ）送り仮名に注意して書き、また、活用について意識をもつこと。<br>ウ 文字に関する事項<br>（イ）第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。  |
| 5年 | 伝国（1）イ 言葉の特徴やきまりに関する事項<br>（ウ）送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。<br>（エ）語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。  |

(2) 本単元の系統は以下のとおりである。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)



(3) 児童の実態は次のとおりである。

|    |        | 関・意・態                                    | 聞く・話す                                 | 書く                                       | 読む   | 認知の特性   |
|----|--------|--|---------------------------------------|--|--|---|
| 1年 | A<br>児 | 意欲的に学習に取り組むことができる。間違いを嫌いくじけ易い。           | 話や読み聞かせを聞き、内容を捉えることができる。              | 書き順が不正確である。正確に視写できる。                     | 平仮名を一文字ずつ、ゆっくり読み進めることができる。                   | 言語的な指示情報で学習を進めることができる。                        |
|    | B<br>児 | 作業的な活動に意欲的である。                           | 話や読み聞かせを集中して聞くことが難しい。問いに答えることが難しい。    | マスの中に字形を整えて書くことができる。                     | 言葉のまとまりで読むことができる。                            | 一動作一指示が必要であり。確認や促しが必要である。                     |
|    | C<br>児 | 読み聞かせを楽しみにしている。意欲的に発表する。                 | 内容の一部を捉えて聞いている。                       | 文字は覚えている。字形を整えて書くことが難しい。                 | 一文字ずつ丁寧に読み進めることができる。                         | 手本や見本があると理解し易い。                               |
| 2年 | D<br>児 | 絵本や図鑑が好きで、読み聞かせを喜んで聞く。言葉をよく知っている。        | 話を聞き内容もよく理解できる。テーマを意識して話ができる。         | ひらがなが正しく書けず苦手意識がある。簡単な漢字は読めるが書くことは難しい。   | 手立て(文を押える・スラッシュや助詞に印・漢字にふり)をすると最後まで読むことができる。 | 視覚的な情報や指示が動機付けとなり易い。課題を的確に伝え、見通しをもつと取組が持続する。  |
|    | E<br>児 | 語彙が少ない。「書けない」「読めない」自信のなさがある。課題に最後まで取り組む。 | 自分なりの解釈で話や内容を捉えることがある。                | ひらがなやカタカナが出てこないため、苦手意識がある。漢字の読み書きは、難しい。  | 手立て(スラッシュや助詞に印・漢字にふり)をすると時間はかかるが丁寧に読むことができる。 | 読み聞かせなどの聴覚的な情報と挿絵などの視覚的な情報で理解を深めることができる。      |
| 3年 | F<br>児 | 読み聞かせを聞いて内容を捉えることができる。スキル学習に意欲的に取り組む。    | 絵本や教科書の読み聞かせを聞き、簡単な質問に答えることができる。      | 読むことができる漢字を文章の中で使うことは難しい。送り仮名の表記の間違いが多い。 | 漢字にふりを書いたり助詞に印を付けたりすることで読むことができる。            | 語彙の説明や使い方の補足が必要である。手本を示すことで、安心して進めることができる。    |
| 5年 | G<br>児 | 語彙が少ない。50文字程度の日記を書くことができる。集中が続かず、私語が多い。  | 挿絵や文章に出てきた絵や言葉に興味を示し、内容から離れてしまうことがある。 | 学習した漢字を使おうとする。送り仮名に気を付けて書くことができる。        | 丁寧に文字を追いつ、文を読むことができる。言葉や漢字の意味の理解が難しい。        | 語彙の説明や使い方の補足が必要である。見通しをもつと、活動に最後まで取り組むことができる。 |

(4) 指導上の留意点

- 児童の実態を把握し、児童一人一人にあった課題の内容や量を検討し提示する。
- つかむ・振り返りの時間にみんなで学習する場面を設け、学び合いの楽しさや頑張りを認め合う時間とする。
- 児童が自信をもって音読できるように、漢字にふりがなを書き、言葉のまとまりに印を付けるようにする。
- それぞれの学年の学習課題を進めていくことができるように、学年ごとのホワイトボードの活用やパーテーションの使用を考える。
- 3、5年生においては、児童自ら学習のスケジュール作りに取り組むことで、見通しをもって取り組むことができるようにする。
- 児童が課題学習に集中して取り組むために、操作活動の時間を十分取るようにする。
- 活動の中で随時プロンプトを入れ、児童が意欲的に安心して進めることができるようにする。
- 1、2年生においては、ペア学習を取り入れ、学び合いの楽しさを感じることができるようにする。
- 自己選択できる場面を設け、選択する喜びや選択した課題をやり遂げる達成感を味わうことができるようにする。
- 視写することが難しい児童には、書き出しや文章の区切りが分かるシートを準備し、自ら書き進めることができるようにする。

(自立活動の視点)

- ・心理的な安定
  - (1) 情緒の安定に関すること
- ・人間形成
  - (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること
  - (4) 集団への参加の基礎に関すること
- ・コミュニケーション
  - (2) 言語の受容と表出に関すること
  - (3) 言語の形成と活用に関すること

3 単元の目標

ア 全体目標

- (1年) 音節や言葉の響きのおもしろさを知り、音読を楽しむことができる。
- (2年) 主語と述語を整えた文を作ることができる。
- (3年) 漢字の音読み訓読みを意識して読むことができる。
- (5年) 結び付きの言葉の面白さを知り、複合語を作ることができる。

イ 個人目標

|    |      |                                      |
|----|------|--------------------------------------|
| A児 | (1年) | 自分の速さで音読することができる。一人で視写することができる。      |
| B児 | (1年) | 自分の速さで音読することができる。ヒントを見ながら視写することができる。 |
| C児 | (1年) | 自分の速さで音読することができる。なぞり書きができる。          |
| D児 | (2年) | 絵を見て、主語と述語の入った文を作り書くことができる。          |
| E児 | (2年) | 絵を見て、主語と述語の入った文を作り書くことができる。          |
| F児 | (3年) | 漢字の音読み訓読みを意識して読むことができる。              |
| G児 | (5年) | 結び付きの言葉の面白さを知り、複合語を作ることができる。         |

4 評価規準

|    | 関・意・態   | 話す・聞く                                  | 書く能力                                   | 言語についての知・理・技  |
|----|---|--|--|---|
| A児 | ◇主体的な態度(発言)<br>・指で押さえながら自分の速さで音読をしている。<br>・視写する文を選んで<br>いる。 | ◇主体的な態度(発言)<br>・友達の音読を聞き、声を合わせて音読している。 | ◇思・判・表等(シート)<br>・教科書を確認しながら、文を書き写している。 | ◇思・判・表等(発表)<br>・教師や友達の音読を聞いて、言葉のまとまりやリズムを捉えて音読している。 |

|        |   |   |   |   |
|--------|---|---|---|---|
| B<br>児 | ◇主体的な態度（発言）<br>・視写する文を選んで<br>いる。<br>・進んで視写した文を<br>読んでいる。                  | ◇主体的な態度（発言）<br>・友達の声読を聞き、<br>声を合わせて音読を<br>している。           | ◇思・判・表等（シート）<br>・プリントに書いてあ<br>る書き出しの言葉を<br>ヒントに、文を書き写<br>している。      | ◇思・判・表等（発表）<br>・言葉のまとまりを捉<br>えて、リズムよく音読<br>している。                                |
| C<br>児 | ◇主体的な態度（発言）<br>・自分の速さで、最後<br>まで音読している。<br>・視写する文を選んで<br>いる。               | ◇主体的な態度（発言）<br>・友達の声読を聞き、<br>声を合わせて音読を<br>している。           | ◇思・判・表等（シート）<br>・なぞり書きを見なが<br>ら、文を書き写してい<br>る。                      | ◇思・判・表等（発表）<br>・友達と一緒に声を出<br>し、楽しく音読してい<br>る。                                   |
| D<br>児 | ◇主体的な態度（態度・発言）<br>・チャイムが鳴ったら<br>席に着いている。<br>・絵を見て、文を考え<br>ている。            | ◇主体的な態度（発言）<br>・考えた文を友達に<br>伝えている。<br>・友達の考えた文を聞<br>いている。 | ◇思・判・表等（シート）<br>・主語と述語を意識し<br>た文を書いている。<br>・教科書の漢字を使っ<br>て、文を書いている。 | ◇思・判・表等（シート）<br>・教科書の絵を見て、<br>主語と述語を意識し<br>た文を作っている。<br>・教科書の漢字を見<br>て、書き写している。 |
| E<br>児 | ◇主体的な態度（態度・発言）<br>・絵を見て、文を考え<br>ている。                                      | ◇主体的な態度（発言）<br>・考えた文を友達に<br>伝えている。<br>・友達の考えた文を聞<br>いている。 | ◇思・判・表等（シート）<br>・主語と述語を意識し<br>た文を書いている。<br>・教科書の漢字を使っ<br>て、文を書いている。 | ◇思・判・表等（シート）<br>・教科書の絵を見て、<br>主語と述語を意識し<br>た文を作っている。<br>・漢字の筆順を見て、<br>書き写している。  |
| F<br>児 | ◇主体的な態度（態度）<br>・学習のスケジュール<br>を立てている。<br>・教科書の文を、声を出<br>して読んでいる。           | ◇主体的な態度<br>・課題を進める中で、<br>教師に尋ねたり確認<br>したりしている。            | ◇思・判・表等（シート）<br>・手本を見て改行に気<br>を付けて書いている。                            | ◇思・判・表等（操作）<br>・読みの違いを意識し<br>て読んでいる。<br>・文の意味を捉えて、<br>絵札と合わせている。                |
| G<br>児 | ◇主体的な態度（態度）<br>・学習のスケジュール<br>を立てている。<br>・言葉の意味を考え<br>て、複合語を作ろうと<br>考えている。 | ◇主体的な態度<br>・課題を進める中で、<br>教師に尋ねたり確認<br>したりしている。            | ◇思・判・表等（シート）<br>・漢字カードを組み合<br>わせた複合語をシー<br>トに書いている。                 | ◇思・判・表等（操作）<br>・言葉の意味を考え、<br>漢字カードを組み合<br>わせて、複合語を作っ<br>ている。                    |

5 指導計画 (3時間取り扱い)

| 時<br>間        | 指導のねらいと主な学習活動                 |   |  |                                    |
|---------------|-------------------------------|---|--|------------------------------------|
|               | (1年)                          | (2年)  | (3年)                                       | (5年)                               |
| 1             | 声に出して音読を楽<br>しむ。<br>・視写       | 絵の中の言葉を使っ<br>て、公園の様子を話<br>す。<br>・漢字を読み、なぞる          | 音と訓に気を付けて、<br>漢字を読んだり書い<br>たりする。<br>・漢字の練習 | 複合語を知る。<br>・視写                     |
| 1             | 早口言葉に挑戦する。<br>・視写             | 絵の中の言葉を使っ<br>て、公園の様子を話<br>す。<br>・漢字を読み、なぞる<br>・文を書く | 音と訓に気を付けて<br>漢字を読んだり書い<br>たりする。<br>・歌の視写   | いろいろな複合語を<br>知る。<br>・複合語を見付けよ<br>う |
| 1<br>(本<br>時) | 声に出して音読を楽<br>しむ、視写をする。<br>・視写 | 絵の中の言葉を使っ<br>て、公園の様子を話<br>す。<br>・文を書く               | 音と訓に気を付け<br>て、漢字を読んだり<br>書いたりする。<br>・読み札書き | いろいろな複合語を<br>作る。<br>・複合語を作ろう       |

## 6 研究テーマについて

### 【特別支援教育研究部会 研究テーマ】

#### 一人一人の輝きが見える授業の在り方 ～特別支援学級の中で～

特別支援学級に在籍する児童は、一人一人何らかの学習に対する困難さを感じており、時に「できない。むずかしい。分からない。」などと学習への不安を言葉にすることもある。一人一人の実態や特性を踏まえ、学習の困難さに応じた支援を積み重ねることで、児童は学習が楽しいと感じ、学習への達成感を味わい、それが学習内容の定着へとつながっていくと考えている。

授業の中での児童の輝きとは、学びに向かう姿だと考える。学習に意欲的に取り組もうとしている姿、考えている姿、「できた」「わかった」と充実感や満足感を感じている姿、そして、友達と意見を出し合ったり、考えを認め合ったり、教え合ったりする姿などが考えられる。それらの姿を引き出し、児童の学びの定着につなげるために次の点に留意しながら、指導・支援に当たりたい。

#### ○見通しをもたせる

- ・日々の授業の中に、自立課題（課題学習）の活動を取り入れ、複数学年での学習においても、一人で（または、学年の友達と一緒に）課題に取り組むことができるようにする。
- ・スケジュールを提示する。必要な児童には、可視化する。

#### ○教材の工夫

- ・課題に取り組みながら、学習の確認ができる（教師や友達に聞く、・・・カードを見る、カードの裏の答えを見るなど）教材を準備する。
- ・学年や児童の実態に応じた漢字カードやプリントを準備し、児童が自力で学習を進めていくことができるようにする。

#### ○活動場面の工夫

- ・学習に変化をもたせ、リズムよく取り組むことができるようにするために、一人学びの活動や友達との活動、教師との活動などの場面を取り入れる。

#### ○評価

- ・児童が安心して学習を進めていくことができるように、教師が、随時プロンプトを入れる評価・支援を行う。
- ・相互評価を取り入れ、児童同士の互いの頑張りを認めることができるようにする。